

橘町の見どころ

まちの歴史シリーズ ④1

橘町HP <https://tachibana-net.jp>

歴史・史跡をクリック

発行：橘町まちづくり推進協議会
ふるさと部会
発行日：令和7年11月1日
責任者：吉野 勝美
原稿作：宮下 正博
事務局：橘公民館 22-3884

今月号の案内者は

潮見区長 吉永 俊彦さん

橘にいいよ来る番だけ
ど、ちょっと忘れ物。
時間をさかのぼって



橘公業さんは、山口県にも
ゆかりがありそうなので・・・。
時は源平合戦真っ盛りのころ。元暦
元年（1184）だから、まだ公業さん
が19歳のころにもどるバイ。
ミサエちゃん、質問よろしく

●主な登場人物



源頼朝



橘公業（主人公）



父：橘公長



佐々木高綱

19歳頃、どんなことがあったの



平家一族は一ノ谷合戦で敗れたあと、九州に行
って占領したので、この年、頼朝軍は兵を出
し、この時公業が讃岐（四国）の御家人を味方
につけて戦ったことは③号で紹介したよね。
それが、この年の9月のこと。

忘れたろうケン、あらすじネ



今から800年前（鎌倉時代）のこと
橘町の主人公、**公業が鎌倉で活躍！！**

注）公業推定年齢は参戦時を元服年齢として
計算しています

- ・1180年8月 頼朝挙兵 ……30号
- ・同年12月 ……32号
- 橘公長親子が頼朝軍に参戦 15歳
- ・1184年 19歳
- 屋島合戦で公業が讃岐の武士団を率いる
- ・1185年 20歳
- 平家滅亡後、父の公長が敵大将の処刑を命
じられる ……以上33号
- ・1189年 24歳
- 奥州合戦へ出陣
- ・1190年 25歳
- その後、兼任の乱で戦う ……以上34号
- ・1193年 28歳
- 曾我兄弟の仇討ち後、頼朝に弟範頼が疑わ
れて、公業の兄が討たれる ……36号
- ・1195年 30歳
- 瀬田の唐橋で男を上げる ……37号
- ・1199年 頼朝死去（3年分吾妻鑑欠落）
- ・1203年 頼家出家、実朝が継ぐ
- ・1209年 44歳
- 隣家、美作と騒動 ……40号

ふん、ふん。
で？



吾妻鑑には、12月になると、佐々木盛綱とい
う人が備前（岡山）の児島の海を馬で渡る場面
が出てくるんだけど、それについて行った六騎
に「橘三」「橘五」の名があるんだ。つまり橘
公長の3番目と5番目の子供になるね



ここに出てくる佐々木盛綱という人は、頼朝
の従弟で伊豆に流された時から頼朝に仕えた
人物。この人の弟が佐々木高綱。山口県に伝
わる『武久家文書』には、頼朝が全国に守護
を配置した時（1186年）、この高綱が長門国
（山口県）の守護で、**守護代に橘公長（公
業の父）がなった**と書いてあるんだ。

橘三とか橘五とか、誰なの？



私の長男は公忠、次男が公業

なんじゃが、3男からは諸説

あってのう。渋江系図では、公業・公清・公経・公仲とされとるんじゃが、
藤田博士^{注①}の研究では公忠・公業・惟広（又は公経）・公高・公仲（奈良五郎）・公久とされておる^{注②}。よく判らんワイ

注①藤田精一博士。『楠氏研究』で知られ、
楠木正成につながる全国の橘氏の系図を調べた人。

注②詳しい論者は『湯かり』75号花田晴年さん参照。

でも、なぜ公長さんが守護代になったか、わからないわ。

それが書いてあるのが山口県の『武久家文書』。これは、山口県の文化財に指定^{注④}されているよ。

注④『武久家文書』（山口県の文化財指定古文書）

この中の系図に、初代が橘公長であると書かれている

「左大臣徳大寺実能の庶子公保の子公佑が初代 **公佑は公長ともい**後に姓を改め永富時永と称す。彼は長門介に任じられ建久5年(1194)に亡くなる。その子**は永富公業**又は佑時と言ひ、薩摩守に任じられ、長門守護を務めた」とある。

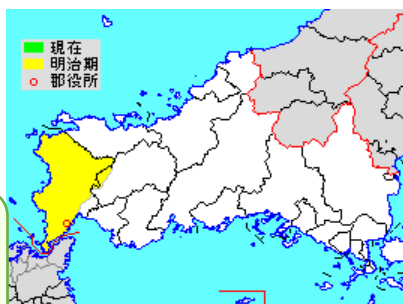
(ゆかり76号 花田晴年氏の「吾妻鑑に見る橘氏の事績」より)

ザックリ言えば、公長さんにはたくさんのお子さんがいたということね。
ところで、長門国ってどこ？

ネットで見れないかしら？



場所は、黄色の所。流れは下の囲み。



長門の守護代になるまでの流れを簡単に教えて下さいな。

源平争乱	頼朝が東国役職を勝手に授与
↓	
義仲の京侵攻	平家都落ち
↓	
後白河上皇復権	平家の土地を朝廷没収 ^{注③}
↓	
義仲&平家没	上皇が平家土地を恩賞に
↓	
義経が平泉へ	朝廷が守護地頭を認める
↓	
御家人を守護へ	佐々木高綱が長門の守護

注③ 平家の土地した所を「平家没官領」といいます。



高綱よ。よう尽くしてくれた！
そいけん、長門ばやーたい。



- 8番目から次のように書かれておる
- 8三河守殿**範頼**(没水跡地頭職御知行被任佐渡守)
- 9土肥次郎実平(号惣追捕使代官土岐次郎)
- 10 佐々木四郎左衛門尉高綱 国号守護職
(大将殿より文治2年給之7月12日下)
- 11 佐々木太郎判官貞綱(高綱舎兄)
(**守護代橘次公久**)
- 12 佐々木広綱(守護代は空欄)
- 13 **薩摩守公業**(承久3年7・8・9 3か月知行)

●**赤枠**の所が橘氏じゃ。

●花田氏は、「橘氏と頼朝側近の佐々木氏とはつながりが深く、屋島合戦を率いた**範頼**の跡を、佐々木&その縁で橘氏が守護になったのではないかとされておる。

※今月号の出典は吾妻鑑(鎌倉時代の歴史書)と湯かり75号・76号花田晴年氏原稿を参考にしました。

今回ご紹介した時代は『平安末～鎌倉時代』でした(1185年以降が鎌倉時代)